

新教育施設としては各種技術學堂（即ち船政學堂、機器學堂、電報學堂、鑛業學堂）及び軍事教育（水師學堂、軍醫學堂）が創設され夫々の教育が實施されつゝあつた。

第二節 日清戰爭以後

新教育が實施されて其の成績が漸次現れ始めたときに當つて、日清戰爭の勃發に遭ひ一頓挫を來すに到つた。支那教育界に與へた直接の刺戟はこの戰爭であつて、新教育の必要を切實に教へ洋學の研究は時代の流行となつた。此時陸軍學堂、鐵路學堂及び天津頭二等學堂、上海南洋工學、梁啓超主講の湖南時務學堂等の普通學校が設立された。

光緒二十八年には、時の管學大學張百熙は京師大學開設準備の命を承け、吳汝綸及び紹英等を日本に特派し日本の學制を研究し之を基礎として支那の事情を參酌して立案せしめ、翌二十九年學堂章程の發布となつた。之は實に支那に於ける系統ある學制の嚆矢である。この章程に基き開設された京師大學堂が今日の北京大學の前身である。

又この新學制の實施に平行して社會上並に教育上に齎した大變革は、周代より踏襲し來つた科舉制度（官吏採用試驗制度）の廢止である。この大英斷は李鴻章、張之洞の卓見に依るものであるが、又押